

催芽粃湛水散播栽培で稲作を省力化

— 新たな直播栽培技術を開発 —



鳩胸程度まで浸種
コーティングはしない



湛水状態でばらまき
播種量5kg/10a(乾粃換算)
落水播種は種子が土中に沈んで出芽不良



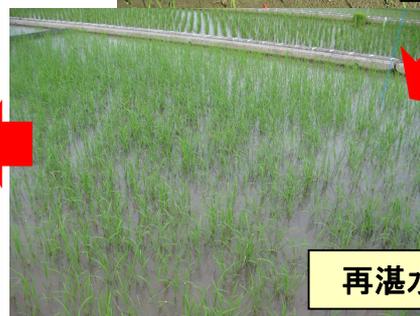
湛水状態で発芽させる



しばらく湛水、雀を回避



4~5葉期頃に芽干し
5~7日程度



再湛水・旺盛な分けつ



収穫へ



しっかり中干し、倒れにくい稲に
移植栽培より強めに



田植えも種子コーティングも不要



鉄コーティングすじまきと比べて

鉄資材・専用機械の費用節減
鉄コート種子作製作業の省略
播種作業時間の短縮

が図れます

○催芽粃湛水散播栽培の標準的な技術体系(品種きぬむすめ・5月下旬播種)

時期	5月		6月			7月			8月			9月			10月	
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
イネの生育		出芽期	4 5 5 葉期					幼穂形成期			出穂期					成熟期
主な作業	耕耘 基肥散布	直播・代かき 除草剤散布			(いもち病予防剤散布)				穂肥散布		(出穂前防除)	(出穂後防除)				収穫
水管理		湛水	芽干し	湛水	中干し						間断かんがい					落水

○施肥は湛水直播栽培用一発肥料と穂肥1回の体系で収量品質が安定します。

催芽粃湛水散播栽培における施肥法が生育収量品質に及ぼす影響(2018~2019年農業試験場)

施肥窒素量(kg/10a)				稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏程度 (0-4)	収量 (kg/10a)	検査等級	整粒数割合 (%)	玄米タンパク質含有率 (%)
基肥	中間追肥	穂肥①	穂肥②							
2	3	3	2	78.9	431	0.6	527	1等	82.6	7.9
<u>10</u>	0	0	0	79.5	419	0.7	531	1等	80.9	7.9
<u>8</u>	0	0	2	80.2	423	0.7	584	1等	81.0	8.1

品種きぬむすめ、下線は一発肥料「直播一発004中晩生用」を使用

○除草剤は初期剤と一発処理剤の体系処理(播種後と2週間後頃)を基本とします。比較的薬害が出やすい栽培法なので、剤の選択に注意してください。

催芽粃湛水散播栽培においてイネへの影響の小さいことが確認された除草剤

(2018~2019年農業試験場)

除草剤名	使用時期	10aあたり使用量
サンバード粒剤	播種直後~ノビエ1葉期	3kg
プレキープフロアブル	播種直後~ノビエ1葉期	300ml~500ml
ポデーガードフロアブル	播種直後~ノビエ3.5葉期	500ml
カウンスルコンプリートフロアブル	播種直後~ノビエ3.5葉期	500ml
ベルーガジャンボ	稲出芽揃~ノビエ3葉期	250g
ベルーガ豆つぶ250	稲出芽揃~ノビエ3葉期	250g
ベルーガフロアブル	稲1葉期~ノビエ3葉期	500ml
月光1キロ粒剤	稲2葉期~ノビエ3葉期	1kg



薬害症状・転び苗

- コーティングを行わない催芽粃を代かきの翌日以降に湛水状態でばら播く栽培法です。
- 「きぬむすめ」などの倒れにくい品種が適します。
- 目標苗立数は50~100本/m²、播種量は乾粃で5kg/10aが目安です。
- 芽干しと強めの中干しを行うことで、稲が倒れにくくなります。田んぼに入ったときのかかとの沈み具合が数mm程度の硬さになるまで中干ししてください。
- 播種~苗立ち時期(湛水時)にカモに粃を食べられることがあります。被害が懸念される地域では、入水時期を周囲の水田と同調させるなどして、被害の集中を回避することが重要です。